

金属労協・第 59 回定期大会 議長挨拶

2020年9月1日
全日本金属産業労働組合協議会
議長 高倉 明

金属労協・第 59 回定期大会の開催にあたり、執行部を代表してご挨拶申し上げます。

今年の大会は、新型コロナウイルス感染症への対応のため、Web 会議システムによる開催となりました。

本来ならば多くのご来賓の方々にも参加頂いていますが、感染防止を最優先し、今回はお声がけを控えさせて頂いています。

また、オンラインでの議事運営ということもあり、大会開催時間を大幅に短縮した運営となります。皆さんにはなにかとご不便をおかけしますが、スムーズな議事運営にご協力頂きますようお願い申し上げます。

昨年の大会で確認したように、2021 年度は 1 年の運動期間とし、2022 年度からは通常の 2 年の運動期間と致します。よって本大会では、これまでの 2 年間の活動方針をベースとして、現在の情勢を踏まえた補強を行うとともに、3 年後の金属労協のあるべき姿の方向性を具現化するための、準備を行う 1 年と位置付けたいと思います。

本大会で提案する運動方針については、後程、浅沼事務局長から提案致しますので、私からは、コロナ禍を踏まえた労働運動のあり方や課題について述べたいと思います。

はじめに、本年 7 月には、気象庁の統計史上初となります、台風発生がゼロという異常気象の中で、線状降水帯の発生による令和 2 年集中豪雨が全国各地で甚大な被害をもたらし、我々の組合員・家族を含む多くの方々が被災されました。

心より、お見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を祈念しています。

<金属産業>

金属産業を取り巻く環境は令和の時代に入り、米中新冷戦や保護貿易主義の

台頭、さらには、第4次産業革命・デジタル革命への対応によって急激な変化が始まってきていました。そこに、今回のコロナ禍が重なったことで、これまでの幾多の危機的状況や変革期を遥かに上回る事態に至っており、企業戦略をはじめ、生活スタイルや働き方など、あらゆる分野に多大な影響を及ぼしているところです。

ものづくり金属産業が、今後も日本で、競争力を磨き続け、雇用を維持し、ものづくりを続けていくためには、変化や危機を敏感に察知し、今起こりつつある変化を後戻りさせず、あらゆる変革に果敢に挑戦していかなければなりません。金属労協に集う仲間の知恵と努力で、この危機を乗り切っていきたいと思えます。

また、コロナ禍によって未だに国境の閉鎖や都市封鎖、旅行の自粛など移動の自由が奪われた状況も続いており、これまでの保護貿易主義・自国第一主義の流れが、さらに加速する懸念があります。

加えて、市場経済至上主義や市場原理主義の行き過ぎによる弊害も顕著になってきつつあります。これに対抗するためには、コロナ禍で尚一層顕在化した格差拡大などの負の部分の是正し、国際的に健全な市場経済体制を築きあげ、公正・安定と効率を調和させるバランス感覚を世界が取り戻す、力と英知の結集が必要です。そのためにも、世界中の製造に係わる労働者が集うインダストリアルオールでの連携を強化していきたいと思えます。

<労働運動のあり方>

これから新型コロナウイルスと向き合っていく中で、ニューノーマル（新常态）という、これまで当たり前であったことが、これからは当たり前でなくなり、我々労働組合の活動のあり方や社会のあり方も大きく変わっていくことが想定されます。

感染予防に有効な手段は、3密（密閉・密集・密接）の回避とソーシャルディスタンス（社会的距離）の確保ですが、人と「会わない・近づかない・向き合わない・話さない」ことなどによる弊害も懸念されます。他の人と接触することで、喜びや悲しみ、感動や共感を分かち合えることは、人とのつながりや交わりによって生み出されるものであり、寛容性を失った組織や社会は、持続可能性を失ってしまう懸念もあります。

ウイルスとの共生を前提に、Webなどのオンラインでの活動と、対面での活

動をいかに両立させ相乗効果を上げていくのか、また、多様化する個々人の価値観やニーズがある中で、組合員の総意としての意見をいかに纏めていくのかなど、労働組合としての団結力・組織力を高めていく上での工夫が必要となります。従って、これまでのやり方に固執することなく、危機をチャンスと捉え、一人一人の行動を見つめ直し創り出していく、新しい価値観のもとでの構想力が問われていると思います。

<組織財政 PJT 報告>

金属労協は、2024年に結成60周年を迎えますが、これまでの間、財政基盤の確立をベースとした活動のあり方などについて論議を積み重ねてきており、一昨年の大会において中間報告を行いました。

それ以降、構成組織の書記長・事務局長を中心に、組織と活動のあり方に焦点を当てた論議を行い、その新たな方向性について、本大会において報告いたします。

詳細は後程報告しますが、金属労協にしかできない活動に特化して、連合との役割分担や各産別の活動の効率化にも寄与することを基本に、限られた財源と人材をいかに効率的・効果的に行っていくのか、金属労協の将来像を見据えた報告となっています。少々大胆な報告内容となっていますが、これがゴールではなく産別の皆さんとの議論のスタート地点ですので、それぞれの立場からの積極的な議論参加をお願いしておきます。

<最後に>

現在、過去に類を見ない厳しい状況に直面していますが、これまでも幾多の自然災害や経済危機などの困難な状況を、金属労協に集う仲間の知恵と努力で克服し、それぞれの危機をその後の改革の起爆剤にもしてきたと思います。

厳しい環境の中だからこそ、時代認識に立った明確なビジョンを掲げながら、新たな試み「改革と創造」に、皆さんと共に果敢に挑戦していきたいと思えます。

Web参加でやりにくい面もあるとは思いますが、皆さんの真摯で活発な討議をお願い申し上げ、冒頭の挨拶と致します。